

発言者	発言内容
<p>西田教育長</p> <p>押川学校教育課長</p>	<p>引き続き、議案 第21号 平成31年度に使用する小・中学校用教科用図書の採択について議事を行う。</p> <p>まず、採択地区協議会の概要について説明をお願いしたい。</p> <p>宮崎採択地区協議会の設置の目的は、義務教育諸学校の教科用図書無償措置に関する法律第13条4項に基づき、宮崎市、国富町、綾町を併せた宮崎採択地区内の市町立小中学校で使用 する教科用図書について、種目ごとに同一の教科用図書を採択 するために協議することである。</p> <p>宮崎採択地区協議会の構成員は、1市2町の教育長、教育委員 代表と宮崎市・国富町・綾町の保護者代表各1名の計9名で ある。</p> <p>本年度は、平成31年度から使用される小学校用の教科書、 中学校用の「特別の教科 道徳」の教科書採択のために、6月 1日、7月13日に本協議会が行われた。第2回の協議会にお いてそれぞれ1者の教科書が選定された。</p> <p>採択地区協議会は、種目ごとに同一の教科用図書を選定する ために設置される。その後、市町教育委員会が採択すること になるが、採択地区協議会が選定した教科用図書について、市町 教育委員会の同意が得られなかった場合には、協議会は再協議 を行うこと。</p> <p>市町教育委員会は、その再協議の場に、理由を明確に記した 報告書を作成して提出すること。</p> <p>再協議の結果については、市町教育委員会はこれに従うもの、 と定められている。</p> <p>そこで、小学校用の教科書、中学校用の「特別の教科 道徳」 の教科書のうち、それぞれ1者の採択についてご審議をお願い するものである。</p>
<p>西田教育長</p> <p>押川学校教育課長</p>	<p>それでは、平成31年度に使用する小・中学校用教科用図書 の採択について説明をお願いしたい。</p> <p>本年3月の文部科学省初等中等教育局の通知文により、小学 校用教科書と、道徳の教科化に伴い、「特別の教科 道徳」中 学校用教科書について、採択することとなっている。</p> <p>小学校用教科書は、新たな検定本がない状況での採択であり、 平成26年度採択時の資料を活用して採択した教科書につい て、中学校用教科書は、教科書発行者8者の教科書のうち、1 者の教科書採択についてご審議をお願いする。</p> <p>このあと、調査研究結果説明を、小学校、中学校それぞれの 担当が行う。</p>

西田教育長	<p>それでは、審議に入る。</p> <p>小学校用教科書と、</p> <p>中学校用「特別の教科 道徳」の教科書について、宮崎採択地区協議会で選定された「日本文教出版」の教科用図書について、担当から説明をお願いしたい。</p> <p>まずは、小学校用教科書について説明をお願いしたい。</p>
押川学校教育課長	<p>小学校の各教科書</p> <p>国語、書写、社会、地図、算数、理科、生活</p> <p>音楽、図画工作、家庭、保健</p> <p>について説明させていただく。</p> <p>小学校用教科書の採択については、平成26年度採択における調査研究の内容を活用し、小学校の各部長より平成27年度から平成30年度までの4年間の使用実績について意見聴取した。その際、全ての教科において「これまで使用してきた教科書で児童の指導に問題はなかった」との回答を得ている。</p> <p>本採択地区においては、平成26年度採択における選定理由をもとに、それぞれの教科において平成31年度については、現在使用している教科書をそのまま使用することと判断された。</p> <p>各教科書の平成26年度採択時の選定理由については、資料のとおりである。</p>
西田教育長	<p>続いて、中学校用「特別の教科 道徳」の教科書について、担当から説明をお願いしたい。</p>
事務局担当者	<p>まず、本採択地区の生徒の実態として、きまりを守る、あいさつをするなどルールやマナーについての大切さを認識し、地域とのかかわりや環境を守ることの大切さを考え、ボランティア活動に参加する生徒が多い地区である。</p> <p>一方で、道徳の授業における課題は、生徒一人一人の道徳的価値観を広げ、道徳的実践力を高めることで道徳的実践に結びつけていくことや、どの学校でも起こりうるであろういじめの問題を解決する力や望ましい生活習慣を身に付け、学校生活に適応していくことなど、身近な社会問題や将来遭遇するであろう課題への対応力を高めることが必要な状況である。</p> <p>このような実態を踏まえ、本採択地区においては、「日本文教出版」の教科用図書が適切であると判断された。</p> <p>配慮されている点について説明させていただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 題材の構成・配列について、教科書中段に「いじめ」と向き合う、安全に生きる、情報モラル、環境、伝統・文化・国際理解を重点指導内容として複数配置し、生徒の道徳性を育むための重点化を図る工夫が見られる。 ○ いじめ問題について、題材とコラム（プラットホーム）を

組み合わせることで、いじめ防止の内容を集中的に扱い、確実な定着を図れるように工夫されている。コラム（プラットフォーム）には、人間として誇りある生き方をするために多面的・多角的にいじめについて考えるページや、その知識を実践につなげられるよう配慮したページを適宜配置し、いじめの防止に資するよう構成されている。

- 主体的に学習に取り組ませるために、生徒の発達段階や、他の教育活動などとの関連を踏まえ、「いじめ」や「安全」などのテーマを設定して題材を配列することにより、学ぶ「必然性」をもたせるよう工夫されている。
- 主体的・対話的で深い学びを実現するために、「問題解決的な学習」「体験的な学習」の手法に適した題材には、生徒の学びと教師の指導の参考となるよう、「学習の学び方」が示されている。
- 言語活動を充実させるために、別冊「道徳ノート」にはすべての題材に対応したページを設け、発問例が掲載されている。また、生徒が自ら考え、議論し、新しく発見した道徳的価値の理解や、級友から学んだ内容を書き込むことで、道徳科の学びを積み重ね、生徒が自らの成長を実感し、自己評価を計画的・発展的にできるようになっている。教師にとっても生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握することができるよう工夫されている。

西田教育長

今の説明に対して、質問や意見はないか。

松野代表教育委員

「内容的には8者ともどこが選ばれてもおかしくない。」というのが結論だと思う。そう言っても8者の中で、より宮崎の子どもたちにふさわしいものはどれかというふうに絞っていかないといけないと思う。その観点として、どういう題材が取り上げられているのか、読み物資料としてどういうものがはいつているのか。それが生徒たちに身近なもので、宮崎の特色、よさのある人物をとおして伺い知れるものが入り入れられていると重要なポイントになると考える。

事務局担当者

本県の偉人を扱っている教科書もある。

例えば、井上康生さんの柔道家としての生き方を取り扱っている教科書が日本文教出版。

宮崎県の医師である柴田紘一郎さんのエピソードをもとにさだまさしさんが作詞した「風に立つライオン」を取り扱っている教科書が教育出版、日本文教出版、廣済堂あかつき。

その他に高鍋藩出身で米沢藩藩主となった上杉鷹山を取り扱っている教科書が学研、日本教科書。

郷土資料を活用して子どもたちにより身近な題材を取り扱っている教科書が教育出版、光村図書。

<p>畠山教育委員</p>	<p>国語の教科書と比較したときに文字の大きさだとか分量だとか、バランスはどうだったのか。教科書を開いたときに、その内容がスッとはいってくるかどうかは道徳ではないかと考えている。先生方が指導しやすい部分もあると思うが、やはり生徒の目線で考えたときに生徒たちがスッと教材に入り込んで、短時間の中でそこに没頭できるかどうかというところが大事だと思う。</p>
<p>事務局担当者</p>	<p>どの発行者においても、文字の大きさや配色、デザインを意識した構成になっている。文字数は、国語より若干少なくなっている。学びやすさを意識した構成になっている。</p>
<p>押川学校教育課長</p>	<p>例えば、国語の教科書は光村図書を使用しているが、文字的にはあまり大きくなく、文字がうすい。文章の量も国語に近く、文章を読み取っていく内容が多いように思っている。やはり道徳は、見開きの2ページくらいで完結して、価値観に迫っていく内容を多く準備していった方が道徳の教科には適しているように感じている。文字の大きさや文章の量について採択の基準の一つだと感じている。</p>
<p>松野代表教育委員</p>	<p>やはり短い言葉で子どもたちが焦点化しやすい読み物に食いつかせる、それは挿絵がどう工夫されているか、漫画がどう取り入れられているかなどが望ましい題材ではないか。</p>
<p>押川学校教育課長</p>	<p>文章とコラムなどをどう組み合わせしていくのか、漫画をどう組み合わせしていくのか、まず導入でどうしていきたいのか、そして次の時間、2、3時間連続して考えることによって価値観を深めていく。そういうところが一つ選定のポイントになると考える。そうすると配列がどうなっているのかというところが大切になってくる。</p>
<p>事務局担当者</p>	<p>配列については、道徳科になるということでキーワードの一つに「考え、議論する道徳」がある。そういった道徳への転換のために各者いろいろな工夫がなされている。全者、「考え、議論する道徳」を意識した構成がなされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東京書籍は、議論する学習を促すため、1題材あたりの分量を少なめにし「考え、議論する」時間を確保する工夫がある。冒頭に主題を示して、問題解決的な学習の流れを提示している。また、巻末付録にホワイトボード用紙を付けて、考えやすくしたり、意見が言いやすくする工夫がなされている。 ○ 学校図書は、議論する学習を促すため、「考え、議論する」授業への転換を考慮し、最後に掲載した中心発問について、グループで意見交換する場面を設定している。また、各学年の冒頭に「学級づくり」というグループワークが設置され、

温かい人間関係に基盤を置く授業を展開できる工夫がなされている。

- 教育出版は、議論する学習を促すため、ペアやグループでの役割演技を取り入れたり、各学年に配置したりしている。また、学習テーマを学級全体で共有しながら対話的な学習活動ができるよう題材の冒頭に「導入」の文章をいれたりする工夫がなされている。
- 光村図書は、議論する学習を促すため、1学年の初めから『対話』で広がる「道徳の時間」を掲げ、対話の大切さを理解させて授業ができるように構成されている。また、葛藤したり、自分の立場に置き換えたりしながら自分の考えを伝え合う場を設定し、話す内容を明確化できる工夫がなされている。
- 日本文教出版は、議論する学習を促すため、自分との関わりで考えられるように、教材と関連した内容や活動を扱ったコラムが適宜配置されている。また、記述ができる「道徳ノート」を併用することで、「考え、議論する道徳」が実践できるような工夫がなされている。
- 学研は、議論する学習を促すため、話し合い活動や記述欄などを積極的に取り入れ、記述欄には十分なスペースが設けられている。また、各題材の末尾や特設ページ「深めよう」に設問を設け、生徒が主体的に考えを広げ、深める工夫がなされている。
- 廣済堂あかつきは、議論する学習を促すため、「考える・話し合う」を配置し、対話を通して考えることができるよう構成されている。また、別冊「道徳ノート」に自分の考えを書くことに重点を置いて、理解を深めるための活用ができるよう工夫がなされている。
- 日本教科書は、議論する学習を促すため、身近な事例を用い、考え、議論することができる内容の題材を掲載している。また、人との関わり方について考える記述式のワークを綴じ込み、自分の努力目標を見直したりする工夫がなされている。

各発行者それぞれの思いが込められ作られており、工夫もたくさん見られる。

題材も挿絵によって見え方が子どもたちで異なる。大きさも一つの視点としてある。コンパクトだったらいいと感じる。一つだけ大きく子どもにとっては負担ではないかなと思う。最初に教科書をいただいたときに重たいというのがあった。

鞆の重さが話題になっているがグラム数は確認できるか。別冊になって重さがどうなっているか。これまで大きかったが、

江草教育委員

西田教育長

押川学校教育課長	<p>重さのことが出てきて小さくなっている傾向がある。意識して小さく作成されていると思う。</p>
柳田教育委員	<p>資料で説明する。</p> <p>別冊を出している２者については、本冊と別冊の重さ、合わせた重さがある。</p> <p>道徳の授業が、年間３５時間と決まっていると毎週こなすだけになってしまいそうである。また内容が難しいものがある。１単位時間の５０分で中学生に考えさせて、消化できるのかが心配である。大人が考えても難しい内容だと思う。盛りだくさんという印象がある。</p>
事務局担当者	<p>道徳の授業は週１時間あるので、授業の中では道徳的实践力を高める指導を行っていく。次の週の道徳までにどれだけの実践ができるかということを生活しながらアドバイスしたり、子どもたちから相談を受けたりしながら指導の充実を図っていくことになる。</p>
柳田教育委員	<p>分からないことを考えて、それをどう現実に考えて自分自身の行動に結びつけていくかどうか、できないことが多いと思う。そこをできるようになっていくのがいい。そこを子どもたちに考えさせることが大切であり、実際の行動が変わるとよい。日常の行動や生活がどうつながっていくのか。そこまで先生方は見ていかないといけないという大変さがある。</p>
松野代表教育委員	<p>スマホとか、SNSとかではなく、話し合うことが大事だということ。この際、みんなに浸透させていくことが大切である。時間の中で考えを深めることが大切である。道徳科はそこをねらっていると思う。</p>
柳田教育委員	<p>実際授業をすると題材の文章の分量は３～４ページである。授業を見るが１単位時間の授業を見ることはできないがどういう展開なのか。題材は生徒に読ませるのか、先生が読むのか。その後の進め方はどう展開するのか。話し合ったりするのか。また、その時間の終わりはどう進めるのか。</p>
事務局担当者	<p>その道徳の時間のねらいとする道徳的価値があるが、その資料を読むことによってその価値観に気付かせたり、その時間で一番理解を深めてほしい発問をいくつか準備して進める。もちろん議論することでいろんな価値に触れたり、自分の価値を広げたり、生き方に生かしていこうと広げたりするなどの気づきを与えられるような討論にする。結論としてもって来ずに自分の心の中でこう考えたという自分の心の中のまとめとして終わることが多い。国語と道徳の違いとして読ませ方がある。国語は言語習得であり、文脈に沿って内容をきちんと一字一句読み</p>

柳田教育委員	<p>取っていく。道徳は、内容に含まれる道徳的な価値が読み取れるかというところが一つの鍵になる。国語のように読ませてはいけない。つまり、単調になってはいけない。教師の指導力や関わりがとても大切になる。</p>
松野代表教育委員	<p>昨年度、小学校の教科書採択された際にも授業について思ったが、先生方は大変ではないか。教科書をどう使っていくか。極端な話、マニュアル的な進め方で授業ができる。だけどそれでは意味がない。先生方の力量で内容まで全然異なってくる。</p>
松野代表教育委員	<p>教える教師がそこまでの考えに至った上での別冊ノートであってほしい。採用されればそういう視点から作っていることを意識して使ってほしい。教師も、生徒も使い方によって効果があるものだと思う。その中で、先生も一個人として討論の中に入れていいと思う。</p>
事務局担当者	<p>小学校の教科書選定の際の協議でも話題になったが、別冊ノートが2者出されているが、別冊ノートがあるのが本当にいいのか。なくてもそれを補えないのか。そういった視点もあると思う。</p>
事務局担当者	<p>別冊ノート以外にも教科書には発問例が用意されている。発問例は、指導者の教材研究や実際の授業における指導の際に役立つというよさがある。指導者が発問例を参考に、問題解決的な学習や体験的な活動、言語活動を取り入れて、多面的・多角的に考えて授業を展開していくことが必要になる。別冊ノートはそういう考えのもとつけられている。</p>
松野代表教育委員	<p>別冊ノートが良いとか悪いとかではない。宮崎地区の中学生の実態を考えたときに、別冊が必要かどうかの議論をもう少しすべきであると考えている。判断は難しいところだが、指導する教師が様々なことを考えた上で必要だとすれば別冊ノートは賛成である。別の視点で言うと荷物が多いのに、道徳の時間に重い教科書をもってくる必要があるのか、置いておくことはできないのかという議論も含めていろいろな角度からの意見が出てこないかと考える。</p>
押川学校教育課長	<p>別冊ノートについて、今回、道徳が教科になり、先生方は評価をしなければならない。こういったときにやはり子どもたちの学びを蓄積していくということがすごく大事になってくる。そう考えたときに、これまでも先生方はワークシート等を活用しながら、それを蓄積しながらやっていたが、初めて教科になることで、先生方も試行錯誤しなければならない。そういうときに別冊ノートがあることにより、一定の価値観の方向に進めることができる、方向付けができることで、別冊ノートの意義があると考えている。道徳の教科化が2～3年経つことで、先生方</p>

松野代表教育委員	も別冊ノートが無くても十分にやっつけていけるという状況になったときに、別冊ノートの有無は関係なく、資料の中味だけで検討していけると考える。
押川学校教育課長	採用された教科書を使って学校現場ではどうだったのかを情報収集して、次回採択に生かしてほしい。
西田教育長	今年度、小学校で教科書を使った授業が行われている。小学校の状況がどうなのか。それを生かしながら来年度からの中学校における道徳科における別冊ノート活用の参考にしていく必要がある。
委員	他に質問や意見がなければ決議する。 議案 第 2 1 号「平成 3 1 年度に使用する小・中学校用教科書用図書採択」について、 小学校用教科書は、平成 2 6 年度採択の教科書をそのまま使用してよろしいか。 中学校用「特別の教科 道徳」の教科書は、日本文教出版でよろしいか。
西田教育長	「異議なし」 議案第 2 1 号は承認された。非公開を解除する。 以上で、第 8 回教育委員会定例会を終了する。